

# Express5800/ftサーバ（Windowsモデル）

## バックアップ復旧手順書 [NTBackup編]

本手順書では、Express5800/ftサーバ(Windowsモデル)にてNTBackupを用いてシステムを復旧する一般的な手順について記載しています。

対象機種: 320Fc-MR, 320Fd-LR, 320Fd-MR, R320a-E4, R320a-M4

対象OS: Windows Server 2003 R2

第 1 版 2014 年 9 月

## 目次

1. 概要 .....	3
2. 復旧のためのフルバックアップ手順.....	3
2.1. バックアップ前に確認する点 .....	3
2.2. バックアップ前準備.....	3
2.3. バックアップ手順 .....	4
3. 復旧のためのフルリストア手順 .....	7
3.1. リストアのための準備 .....	7
3.2. リストア環境作成 .....	7
3.3. リストア手順.....	8

## 1. 概要

本手順書では NTBackup を使用して、Express5800/ft サーバをフルバックアップした状態に戻すための、準備（フルバックアップ）と復旧（フルリストア）の手順と注意点について説明します。

なお、この手順は一般的な ft サーバにおける復旧手順を示すもので、お客様の環境によっては操作手順が異なる場合があります。

また、「Windows Server 2003 R2 32-bit Enterprise Edition」と「Windows Server 2003 R2 Enterprise x64 Edition」で手順に差分はありません。

## 2. 復旧のためのフルバックアップ手順

### 2.1. バックアップ前に確認する点

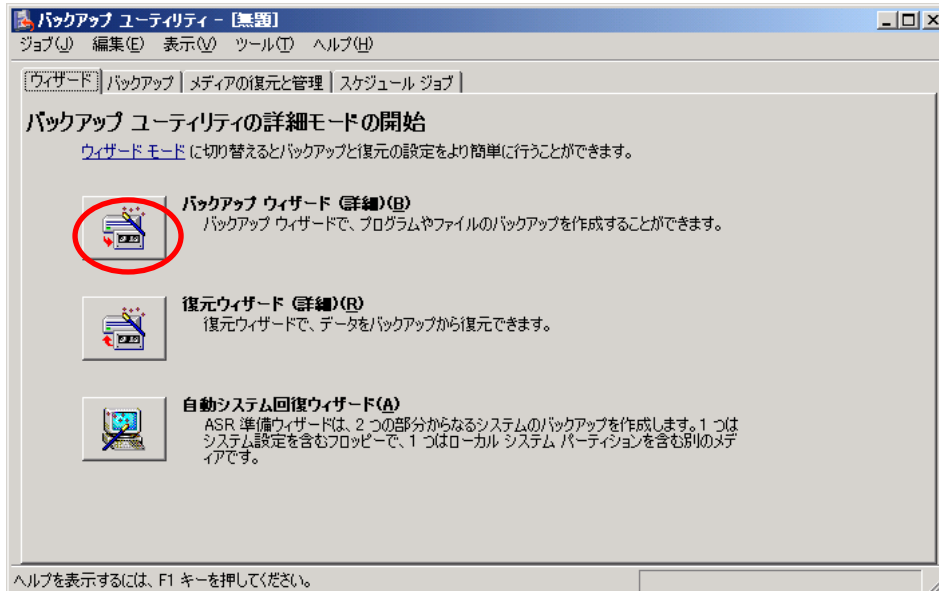
(1) Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition に使用している Service Pack のバージョン

### 2.2. バックアップ前準備

- (1) 対象マシンへのログオン
  - ・ 管理者権限のあるユーザでログオンします。
- (2) 不要サービス等の停止
  - ・ バックアップ中のデータの整合性を保つために、事前に業務アプリケーションを停止し、不要なサービスプログラムも停止させてください。

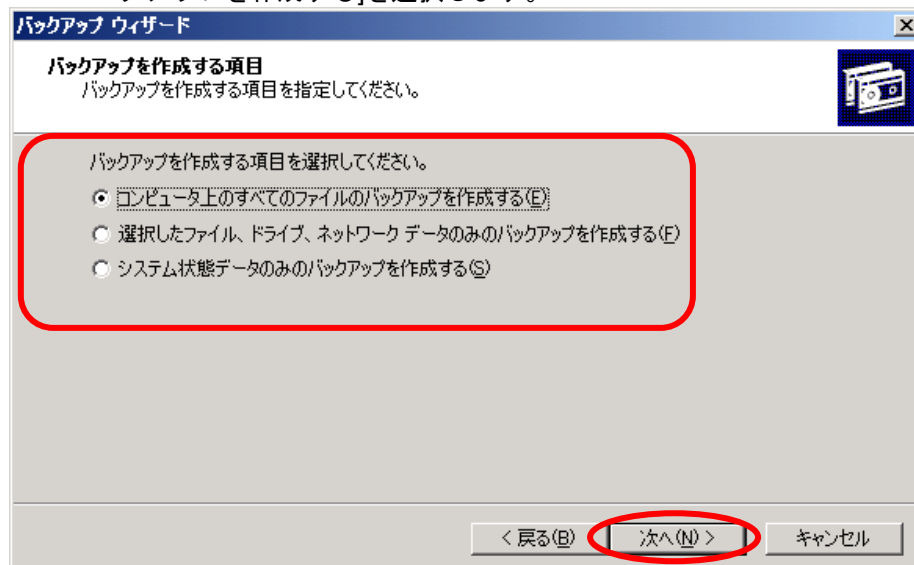
## 2.3. バックアップ手順

- (1) スタートメニューから[プログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[バックアップ]を起動します。
- (2) プログラムが起動したら詳細モードに切り替えて[バックアップウィザード]をクリックします。



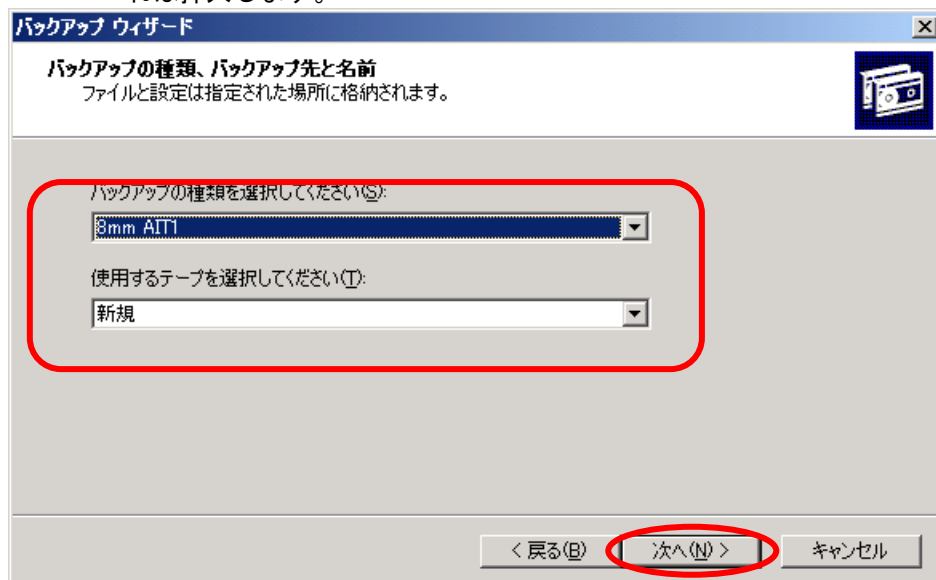
- (3) [バックアップを作成する項目]ページで、保存するデータのオプションのうち該当する項目を選択して[次へ]をクリックします。

注意：[選択したファイル、ドライブ、ネットワークデータのためのバックアップを作成する]を選択するとバックアップするドライブ、フォルダ、ファイルを選択できるダイアログボックスが表示されます。システム状態も含めコンピュータ全体をバックアップする場合は[コンピュータ上のすべてのファイルのバックアップを作成する]を選択します。

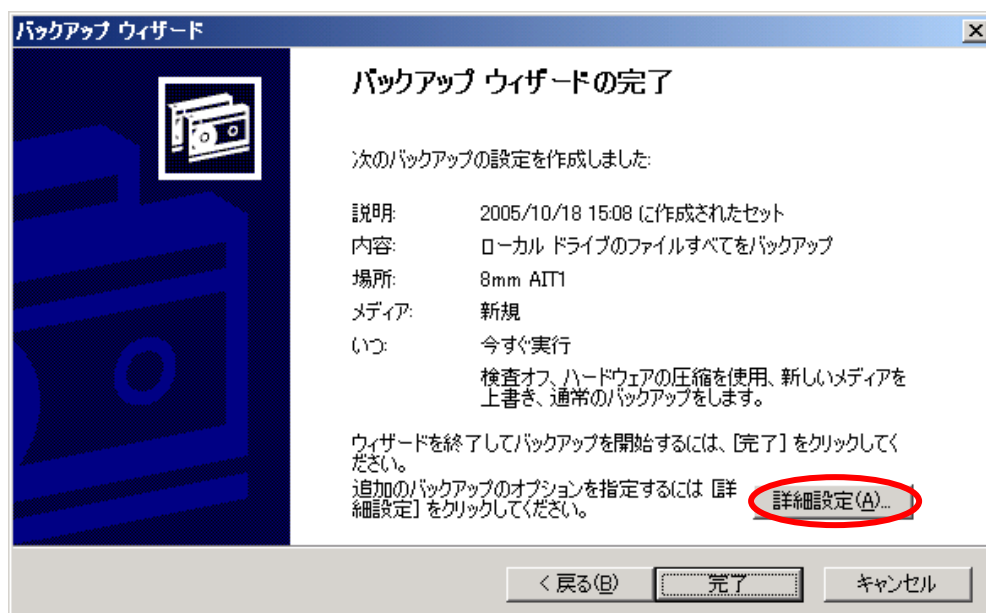


- (4) [バックアップの種類、バックアップ先と名前]ページで、バックアップの種類（ファイルまたは記憶装置）および、使用するテープを選択して[次へ]をクリックします。

注意：ファイルにバックアップするときは、フルパス名を入力します。テープデバイスにバックアップする場合、まだバックアップメディアを挿入していなければ挿入します。



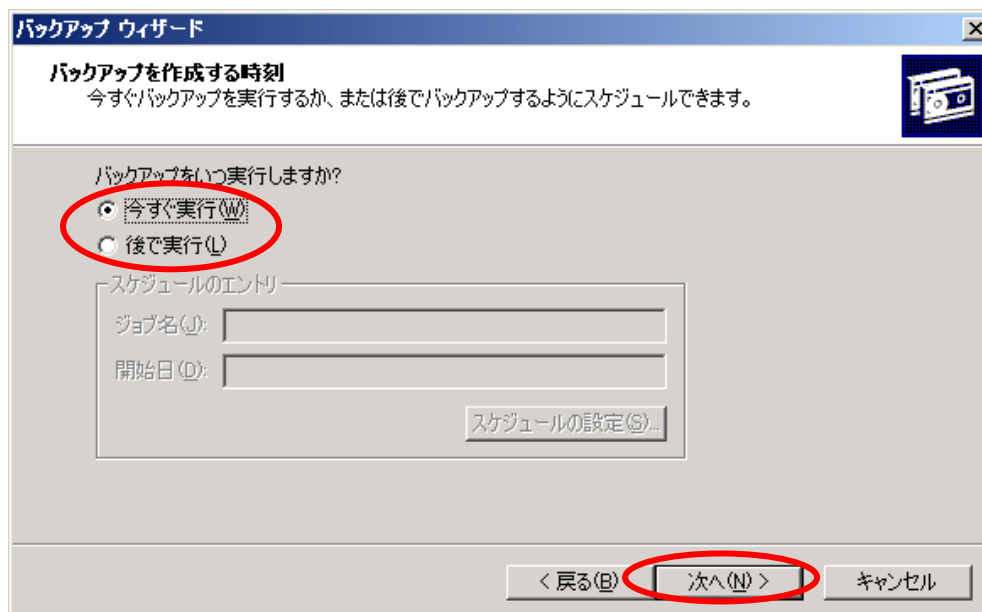
- (5) [詳細設定]をクリックします。



スケジュールのオプションも含め、追加のバックアップのオプションが表示されます。以下のダイアログボックスで適切な情報を入力します。

- ・ バックアップの種類
- ・ バックアップの方法
- ・ バックアップオプション

- (6) すぐにバックアップジョブを開始する場合は、[バックアップを作成する時刻]ページが表示されたら[今すぐ実行]を選択し、[次へ]をクリックします。ジョブのスケジュールを設定するには、[後で実行]を選択し、適切な情報を入力します。



バックアップ ウィザード

バックアップを作成する時刻  
今すぐバックアップを実行するか、または後でバックアップするようにスケジュールできます。

バックアップをいつ実行しますか？

☒ 今すぐ実行(W)

☐ 後で実行(L)

スケジュールのエントリ

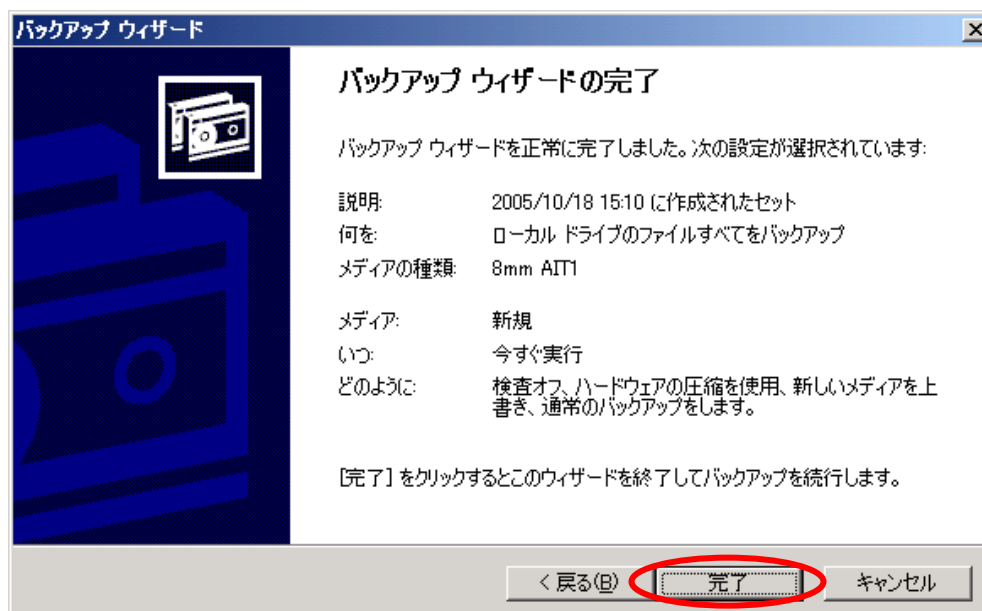
ジョブ名(J):

開始日(D):

スケジュールの設定(S)...

< 戻る(B)   次へ(N) >   キャンセル

- (7) すべての設定が完了したら、[完了]をクリックしバックアップを開始します。



バックアップ ウィザード

バックアップ ウィザードの完了

バックアップ ウィザードを正常に完了しました。次の設定が選択されています：

説明:	2005/10/18 15:10 に作成されたセット
何を:	ローカル ドライブのファイルすべてをバックアップ
メディアの種類:	8mm AIT1
メディア:	新規
いつ:	今すぐ実行
どのように:	検査オフ、ハードウェアの圧縮を使用、新しいメディアを上書き、通常のバックアップをします。

[完了] をクリックするとこのウィザードを終了してバックアップを続行します。

< 戻る(B)   完了   キャンセル

### 3. 復旧のためのフルリストア手順

#### 3.1. リストアのための準備

- (1) リストアするマシンのハードウェア構成の確認  
リストア先のマシンは、バックアップしたものと同一であること。  
レジストリのリストアを行うため、ハードウェア構成が変わると Windows OS が正常に起動できなくなります。
- (2) Windows 2003 OS および EXPRESSBUILDER  
(装置に添付されている場合は ft Server Control Software UPDATE 媒体も用意してください)
- (3) 復旧するマシンのフルバックアップデータ(媒体)
  - ・ フルバックアップ時の媒体
  - ・ その後にバックアップした媒体がある場合はその媒体も必要。

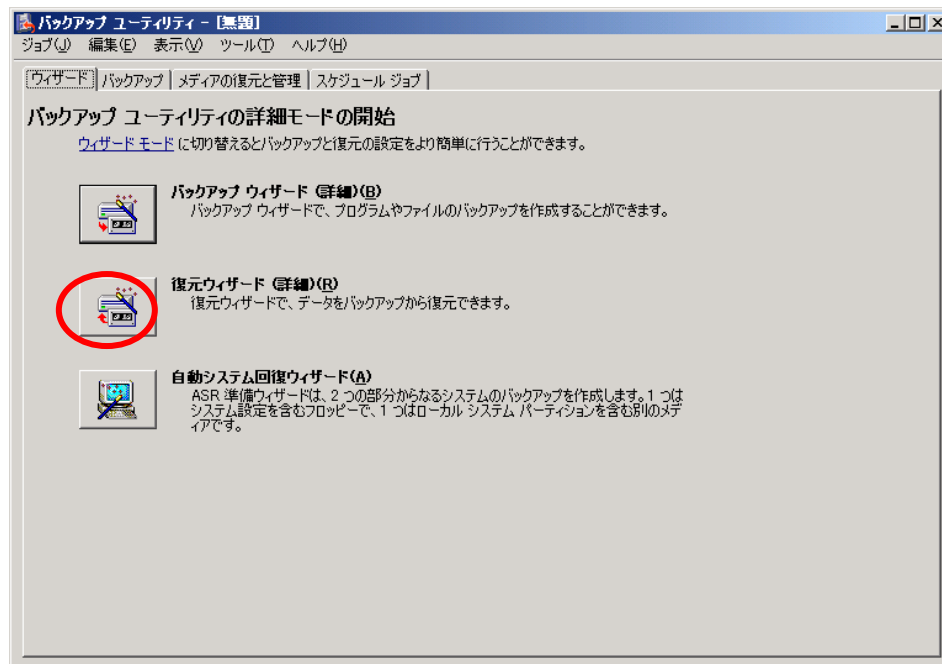
#### 3.2. リストア環境作成

- (1) Windows Server 2003 のセットアップ
  - a) ユーザーズガイドを参照し、ftサーバセットアップを行ってください。  
重要： Windows Server 2003 Enterprise Edition をインストールするドライブは、バックアップ時と合わせてください。マシン名も同じにしてください。
  - b) Windows Server 2003 Service Pack のインストール  
バックアップ時に Windows Server 2003 Service Pack を適用していた場合は、ユーザーズガイドを参照し、Service Pack を適用してください。
- (2) ユーザーズガイドを参照し、LANの二重化設定を行います。
- (3) ユーザーズガイドを参照し、ディスクの二重化設定を行います。
- (4) バックアップしたマシンにService Packの他に、MicrosoftのPatchやft制御ソフトウェアの修正モジュールを適用していた場合は同じものを適用します。
- (5) インストールを完了したら、ユーザーズガイドを参照しBIOSセットアップユーティリティを起動して、「Advanced」－「Monitoring Configuration」の「Boot Monitoring」の設定を「Enabled」に設定してください。
- (6) 接続するオプションのPCIボードおよび周辺装置がある場合には、システムの電源をOFFにし、ユーザーズガイドを参照して接続します。LANおよびディスクを増設した場合には、二重化設定を行います。

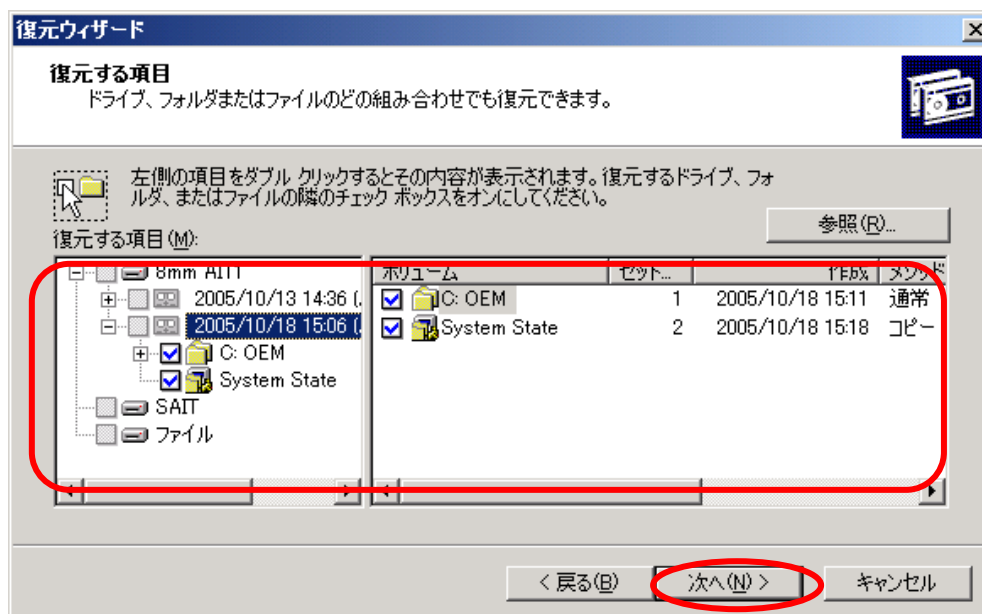
注意：増設LANボードが複数ある場合は、バックアップしたマシンと同じ順序で増設LANボードを導入する必要があります。リストア対象のドライブが複数ある場合は、あらかじめドライブを作成し、以前と同じドライブレターを割り当ててください。

### 3.3. リストア手順

- (1) スタートメニューから[プログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[バックアップ]を起動します。
- (2) プログラムが起動したら詳細モードに切り替えて[復元ウィザード]をクリックします。

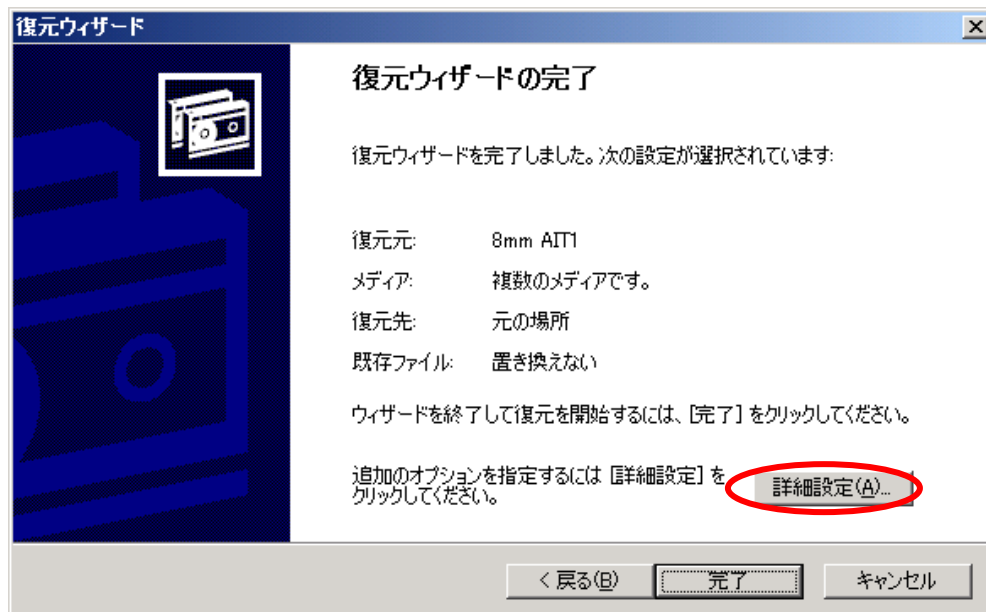


- (3) [復元する項目]ページで、復元するデータのオプションのうち該当する項目を選択し[次へ]をクリックします。





(4) [詳細設定]をクリックします。



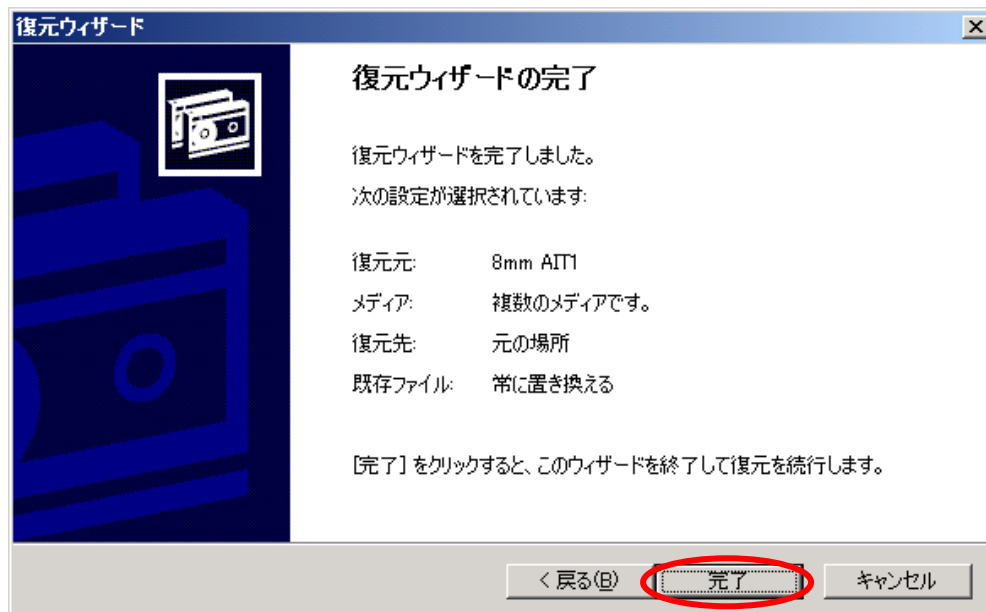
追加の復元オプションが表示されます。以下のダイアログボックスで適切な情報を入力します。

- ・ 復元する場所
- ・ 復元する方法

注意：必ず「既存のファイルを置き換える」を選択してください。

- ・ 詳細な復元オプション

(5) すべての設定が完了したら、[完了]をクリックしリストアを開始します。



(6) リストア完了後、コンピュータを再起動します。

(7) 再起動後、システムが復旧されたことを確認してください。